

そよかぜ

題字 小野倉藏

なかべ学院
中部少年学院後援会

〒750-0081
山口県下関市彦島角倉町
3丁目6番17号
TEL (083) 266-1934
発行 広報部
印刷

(株) ナカハラプリンテックス
TEL (083) 266-4601



山中ホーム外観

就任のご挨拶

児童養護施設なかべ学院

院長 奥野俊昭

本格的な夏の厳しさが少しずつ近づいてまいりました。皆様いかがお過ごしでしょうか。平素は、当学院に対して、多くのご支援・ご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。おかげをもちまして、お預かりしている五〇名の子どもたちは、みんな元気に毎日を過ごしております。

さて、私こと、この度、秋枝前院長の後任として、四月より児童養護施設なかべ学院の院長を仰せつかりました。昨年度は、院長代理として一年間勤めさせていただいたものの、院長としての重責は、皆様方のご支援・ご鞭撻なくしては果たし得ないものと重々承知しております。これからも、どうかよろしくお願いいたします。

なかべ学院では、今年度からの養育目標を、

「コミュニケーション力を高めてすてきな人」

としました。学院を巣立ったときに、社会にうまく適応し、さらに社会で活躍できる人になってほしいという願いを込めています。もちろん、児童のみならず、職員もこの目標の達成に向けて、率先垂範の姿勢で取り組んでいます。

また、今年度から、なかべ学院は、厚生労働省が推進する養護施設の「小規模分園化」に取り組んでいます。まず、四月からは山中町の空き家の一軒家をお借りして「山中ホーム」と名付け、小・中学生の女子児童六名と一緒に暮らしています。今までは、どちらかと言うと控え目だった児童が、山中ホームに居住してからは、近所の人に進んであいさつをしたり、地域行事のお手伝いをしたり、最年長の中学生がリーダーシップを発揮したりして、今までにない成長が見られるようになりました。

さらに、九月からは、新築の角倉町の二軒家をお借りして「角倉ホーム」と名付け、六名の女子児童が暮らし始めます。今度は、六名のうち三名が高校生です。山中ホームとは一味違った、温かくて大人らしいホームになると期待しています。来年度からは、男子児童も含め、段階的に「分園化」を進めていく予定です。皆様も、時間が許せば、ぜひ、この分園化したホームを直接ご覧いただき、ご意見やご感想をいただけると、今後のなかべ学院のさらなる発展につながるものと思っています。

昨年度同様、今年度もコロナ感染症の影響を受けながらの重苦しい日々が続いていますが、なかべ学院の子どもたちは、その重圧に負けることなく、いつも元気に過ごしています。どうか今後も、子どもたち、そして、なかべ学院に温かい眼差しとご支援をよろしくお願いいたします。

児童養護施設

風ホーム

今年の風ホームは、高校生1名、中学生3名、小学生5名、幼稚園児3名の12名でのスタートになりました。可愛い幼児さんから、しっかりもの高校生までが一緒に生活しています。おしゃべりが好きな子が多く、毎日とてもにぎやかで、にぎやかに暮らしています。

地球を齎かしている新型コロナウィルスのおかげで、いつも出ていた外出やイベントもいつものようには出来ません。ゴールデンウィークも、学院で「おうち時間」を過ごしました。ホームの子どもたち全員で、焼肉やハイキングを楽しみました。たくさん食べて笑って、素敵な時間になりました。12人いると、たくさんの個性がそろうています。その個性を良い方向に伸ばしてあげるように、職員みんなでお手伝いをしたいと思っています。職員の成長をさせてくれるのも子どもたちが手伝ってくれます。これからのみんなの成長を楽しみにしています。



月ホーム

9月からの分園に向けて、6人での生活が始まりました。小学生1人、中学生2人、高校生3人のお姉さん達が勢揃いしています。それはそれは穏やかなホーム…とはいかず、「女三人寄れば糞い」といつか、毎日が「女子会状態」です。せうかくの少ない人数なので、二人入浴、話を聞くこととしていますが、子どもたちもそれは同じ気持ち。ゆづり話を聞いてもらおうと、我先に話し始めます。大人たちは聖徳太子には程遠く必死で話を聞いています。

このゴールデンウィークには、みんなそれぞれ作りに挑戦です。郷土料理ですが作ったことは初めてで、試行錯誤しながら完成です。「いつもよりおいしい」。私って天才！と全員が自画自賛して完食しました。



鳥ホーム

昨年度の鳥ホームは、人数が一五人！それはそれは、騒がしい…いやいや賑やかな楽しいホームでした。高校、小学校、幼稚園をそれぞれ卒業・卒園し、楽しみにしていたお花見も、新型コロナウィルスのせいで、外出はせず、屋上で桜を見ながらお弁当を食べる予定にしましたが、風が強くと室内で食べる事に…

子ども達の口から、「何で「ひまわり」って聞いた事でしょうか。さあ、今年度の鳥ホームは十人！五人減るとホームの様子が変わります。最初は「なんか、静かなんやけど」「さみしくない？」と言っていました。少しづつ慣れてきた様子。今年度は幼稚園に入園・小・中学校に入学した子どもがそれぞれ1名ずついます。初めてのことに不安を抱きながらも、今は元気に登園・登校できており職員も一安心です。



海ホーム

新年度は8名でのスタートとなりました。今年は高校3年生、中学3年生2名ずつと、進路決定を控えています。自分の将来を早く決め、目標に向かって努力できるよう、職員もサポートしていきたくと思っています。

コロナウィルスによる生活様式に慣れながらも少しづつ気の緩みもみえてきました。今一度気を引き締めて、手洗い、消毒、マスク着用などの感染防止に努めています。食事中に会話が出来ない事はとても辛いですが、子ども達との会話時間は、今まで以上に大切にしていきたいと思っています。



今年の行事についても、コロナの影響は免れないでしょうが、ゴールデンウィークにはバーベキューとプロシエクターを使った大画面での映画鑑賞を楽しみ、少しでも非日常体験を楽しみました。今年も体調管理を最優先としながらも、充実した1年を送れるよう過ごしていきたいと思っています。

花ホーム

4月から花ホームは、本体施設内の小規模グループケアという位置づけで、小学生2名、高校生4名の男子ホームとしてスタートしました。

小学生2名は、4月当初、人数が少ない静かな雰囲気になじめず戸惑っていました。中庭で縄跳びをしたりサッカーをしたりと楽しく過ごしています。

高校生は、今年度2名入学しましたが、学校の雰囲気にも慣れてきており、充実した高校生活を送っています。残り2名は、3年生なので、進路について不安な事も多いようですが、しっかりと向き合い、大人への階段を上る為、職員と話をしながら進んでいきます。

6名という少ない人数の中で、職員は「こも」という関わり、何を伝えていくのか、少ない人数だからこその出来る事はあるはず。その辺りの事を模索しながら、こどもの最善の利益の為に、しっかりと汗をかいていきたいと思っています。



そよ風

そよ風の子ども達は、新型コロナウィルス感染症の予防をしながら毎日元気に通所しています。コロナ禍で活動が制限される中、みんなで一緒にできることはないかと考え、収穫体験として畑作りに挑戦しています。運動場の一角を耕し、石拾いから始め土を入れ、苗も種から育て畑に植え、子ども達が畑作りの一から体験できるようにしました。又その子の能力に合わせて、できることを用意して、みんなが参加できるように工夫もしました。芽が出るの心配もしましたが、今はじゃがいも、トマト、とうもろこし、枝豆が五センチから二十センチくらいに伸び安堵しています。そして今年から「広報誌」そよ風だより」を発行することとなり、療育活動や生活の様子、畑での活動などをわかりやすくお知らせしていくと思っています。夏には第一弾の収穫ができるように、毎日子ども達と一緒に水やりを楽しんでいます。



乳児院

ももホーム

月齢の小さいお友達仲間入りして、お兄ちゃんお姉ちゃん達は「いない、いない、ほあー」と一緒に遊んでくれます。「モウイッカイ、エエ？」と、可愛い方言を交えて保育者とコミュニケーションが保れるようになりました。一人一人に、様々な成長が見られるももホームです。いちご狩りにも出掛け、口の回りを真っ赤にし、沢山の苺を嬉しそうに食べていました。



ひまわりホーム

ひまわりホーム児童4名は、毎日活発に戸外遊びを楽しんでいます。4月に一歳未満児が仲間入りし、自分より小さなお友達を一生懸命お世話しようとする姿が見られ、とても可愛がっています。いちご狩りに出掛け、大きな苺を採ると大きな口を開け食べていました。これからも仲良く楽しく過ごしていきたいと思います。

ねむりホーム

さくらホームでは、新生児から8カ月児までの6名が生活しています。大きな泣き声でミルクを催促する児、とても穏やかな児、甘えん坊で抱っこが好きな児、一人一人個性豊かです。語りかけにニコリと微笑み「アーアー」とお喋りもしてくれれます。可愛い天使達が健やかに成長していけるようにと、職員も日々精進しています。

ちゅうりっぷホーム

ちゅうりっぷホームの子ども達4名は、元気いっぱい過ごしています。簡単なお手伝いや小さい児のお世話をしたりとお姉さんらしくなりました。自分ですようと頑張る姿を見ると、とても嬉しくなります。日々の成長を子どもと一緒に喜びたいと思います。



すみれホーム

すみれホームの子ども達は、いつも元氣一杯、笑顔が溢れています。言語面の成長が著しく、子ども同士や保育者と会話を楽しんでいます。四月に秋吉台サファリランドに外出し、動物に触れたり餌やりをしました。今も楽しかった思い出話で盛り上がりつつあります。

たんぽぽホーム

たんぽぽホームの子ども達は、活発に仲良く遊びながら、お世話をしたりされたり、喃語で話しかけたりしながら、お互いに刺激し合い楽しく過ごしています。大好きな子ども達に寄り添い、成長を見守ることの出来る喜びを感じ、笑顔が零れる毎日です。

紙風船

「紙風船デー(春)」

4月2日(金)、毎年恒例の「紙風船デー(春)」を実施しました。晴天にも恵まれ、紙風船グループ活動参加児童を主体に児童9名、職員5名が参加しました。

この日は、まず10時に、関門トンネル人道入り口に集合・出発して、めかり神社に参拝した後、めかり公園に到着。タコ型の大型遊具で鬼ごっこを楽しんだ後、トロツコ列車に乗車し、門司港へ移動。門司港では、野外にて昼食の弁当を食べて、レトロな街並みを散策した後、フェリーに乗車して唐戸に到着後、解散しました。

紙風船のグループ活動には、色々な悩みを抱える児童が参加しています。春夏の紙風船デーは、子ども達が大変楽しみにしている野外活動で、新型コロナウイルスの感染予防を徹底した上で、今後継続していきたいと考えています。



【寄附・寄贈】 (順不同 敬称略)
令和二年10月〜令和三年3月
たくさんの方の皆様のご支援に心から感謝申し上げます

(団体)

- シスター(株)
- 果子乃季熊野店
- 西日本高速道路メテナス中国(株)
- 西日本高速道路メテナス九州(株)
- 西日本高速道路(株)グループ一同
- サンタポロジェクトEis Nakama
- 下関北ロータリークラブ
- 日本ベビーフード協会
- あさひ製菓
- アトリエ心
- (株)THEBEACH
- ガツツ山の田
- 唐戸市場食料品卸組合
- 下関沿岸漁業生産者事業協同組合
- 唐戸水産物協同組合
- 下関唐戸魚市場仲協同組合
- 下関そ業生産者直売組合
- 唐戸市場関連業者組合
- 活いき馬関街
- 下関唐戸魚市場(株)
- 唐戸市場業者連合協同組合
- 唐戸市場おかみさん会
- 下関唐戸鮮魚共同組合
- (有)ダイワスポーツ
- (株)寿工務店
- ハレバン下関店
- (株)サントー
- 下関園芸センター
- 全国シャンメリー協同組合
- ほっともっ
- 日本鏡餅組合
- セブインレブン下関球場前店
- (有)三井物産
- 公益財団法人中部財団
- 山口整形外科
- 在日本朝鮮人総聯合会山口下関支部
- 蟹屋
- 鈴木歯科
- 林兼フーズ(株)
- 西部農民組合
- 第一生命下関西営業オフィス
- 公益財団法人毎日新聞西部社会事業団
- 日本料理つか佐
- (株)ワイティエス
- (株)定慧
- 山口県立下関北高等学校
- (有)梅寿軒
- 関門港湾建設株式会社
- 角倉町自治会
- かへの集い
- NPO法人ふるさと山口経営者フォーラム
- 夢現の会
- (株)ものぼんく
- 三井化学労働組合山口支部下関分会
- (一)般 日本児童養護施設財団
- 宇部魚市場(株)
- 下関教会
- セブインレブン福浦店
- (株)ヒサノ
- 山口県農業協同組合
- 山口アポロ石油(株)
- 出光興産(株)中国支店
- (個人)
- 平田 康子
- 宮濱 博
- 松尾 正江
- マイケル ノーマン
- 阿部 敬子
- 岩崎 順一
- 柴田 久
- 咲賀 信幸
- 阿比 留初代
- 脇田 良明
- 中村 精治
- 山下 正代
- 武田
- 上野 隆志
- 吉岡 昭雄
- 高松 猛志
- 宮崎 能具
- 酒井 能具
- 鷺田 マリ
- 藤田 昌雄
- 村上 幸子
- 弘山 直滋
- 尾之上 蜜生
- 倉橋 吉則
- 栗屋 幹雄
- 戸倉 淳
- 村岡 真理
- 匿名

山中ホーム

4月4日にスタートした分園型グループホーム「山中ホーム」は、彦島山中町の一軒家を借りて、小学生4人と中学生2人の女子6人が生活して生活することの戸惑いと寂しさと静かな環境という事もあり、よく「ヒマ」と言っていました。少しずつ生活に慣れると、共通の趣味をもつていたり、洋服のデザインを描いたり、互いが見せあったり、人形の洋服を作ったりと、自分の時間を上手に使うことが出来るようになってきました。料理好きの子も多く「やってみよう」と言い、朝食時にホットプレートで準備すると自分で玉子を割って、目玉焼きやスクランブルエッグを作っています。「あつ玉子を殻が入った」と言いながらも、何度か経験をすることで上手に玉子を割ることが出来ました。料理を作るなど、一般家庭に近い生活体験を少しずつ増やしていきたいと思えます。

また今まであまり経験した事のない地域の方のお付き合いも、自治会行事の参加によって、経験する事が出来ています。私たち職員も小規模になりました。より子ども達と個別に時間を多く持つ事が出来る状況合わせた対応が出来るとなりました。

子供たちが「コミュニケーション力を高めなくてきな人」なるように、職員も「挨拶しながら、ホームでしか出来ない事を子供たちとたくさん経験したい」と思っています。



新任挨拶

児童養護 児童養護 至らぬ点もあると思いますが、子ども達一人一人に寄り添いながら安心できる環境をつくれるよう頑張りたいと思います。

子どもたちと楽しみながら、明るく元気な環境を作れるよう努力していきます。精一杯頑張りますのでよろしくお願ひ致します。

子どもと一番歳が近い分、理解できることが多いと思うので、笑顔忘れず子どもたちに寄り添っていかよう頑張ります。

初めまして。調理員として入りました山本です。一からのスタート頑張ります。よろしくお願ひ致します。

季節の移り変わりや家族の思いを大切にしながら、子どもの健全な成長を見守ります。どうぞよろしくお願ひ致します。

児童指導員 倉益 瑞季

保育士 西 志織

保育士 藤田 美麗

調理員 山本 まゆみ

看護師 福永 陽子

一人ひとりの子どもの成長を見守り沢山の笑顔を増やすことの出来る保育者になりたいです。

毎日笑顔で子どもと向き合い、子どもの気持ちに寄り添いながら一人ひとりに合わせた援助をしていきます。

子どもたちとの関わりを楽しみながら、子ども達の成長と一緒に喜ぶことのできる保育者になりたいです。

子どもの気持ちに寄り添いながら、成長を手助け出来るような保育士になりたいです。

子どもたちが安全で楽しく過ごすことが出来るよう保育士になりたいと思えます。一生懸命頑張りますのでよろしくお願ひ致します。

子どもたちやご家族と向き合い、一緒に楽しんだり悩んだりしながら成長したいと思えます。

保育士 小宮 由美

保育士 森宗 未帆

保育士 細田 愛羅

保育士 對川 遥

臨床心理士 三由 恵梨

令和2年度 収支報告書

社会福祉法人 中部少年学院後援会 (単位 円)

項目	決算額	予算額	差引	摘要
収入の部				
年会費	1,300,000	1,402,000	102,000	団体(56社) 個人(263名)
寄附金等	10,000	4,266	-5,734	
利息	50	37	-13	
当期収入計	1,310,050	1,406,303	96,253	
支出の部				
事業費	852,500	813,500	-39,000	学院支援費 自動車免許取得費用(6人) 280,000 高校生クラブ活動奨励費 200,000 小学生スポーツ文化活動 100,000 卒院祝金(1人1万円×4人) 40,000 チャイルドライン年会費補助 8,000 職員自主研修補助等 0 高校生のスマホ通話料補助 80,000 卒院生支援費(1人) 105,500 行事費 さつき祭材料費等 0
広報費	280,000	264,000	-16,000	広報誌(そよかぜ) 45号 700部 46号 700部
総務費	300,000	291,612	-8,388	通信費(広報誌送料等)部 ハガキ等 130,509 振込用紙印字サービス費 1,103 助成金 紙風船支援費 100,000 ふれあいステーション(角倉校区) 30,000 オレンジリボン 30,000 チャイルドライン 0
雑費	20,000	6,677	-13,323	会議お菓子代等 振込手数料他 6,677
当期支出額	1,452,500	1,375,789	-76,711	
当期収支差額	-142,450	30,514	172,964	
前期繰越金	4,666,095	4,666,095	-	
次期繰越収支差額	4,523,645	4,696,609	172,964	

社会福祉法人 中部少年学院 後援会 様
令和2年度の収支について、上記のとおり報告いたします。
令和3年5月11日
社会福祉法人中部少年学院 後援会 会 計 田上 千代
監査の結果、上記のとおり整理されており正当と認めます。
令和3年5月11日
会計監査 小倉 國雄



啓さんの知恵袋

理事長 石川 啓

「虐(ぎやく)の一字」

虐の一字は、虎が人を爪で引っかくさまを表しています。人が虎の爪にかけられるという危険な場面を表す虐は、「しいたげる」「むごく」「きびしい」などの意味に使われます。

むごい扱いをすることを虐待といいませんが、「児童虐待ゼロ」を一日も早く達成したいですね。

後援会加入のお願い

後援会事務局

法人年会費 一口 一万円

個人年会費 一口 千円

何口加入されてもかまいません。

お問い合わせはなかべ学院まで

TEL 083-266-1934

編集後記

紫陽花の色が美しく映える頃となりました。皆様いかがお過ごしでしょうか。平素はなかべ学院後援会活動にご支援、協力を頂き厚く御礼もつしあげます。

昨年は新型コロナウイルスの影響で、以前普通だったさつき祭、運動会、クリスマス会などが、できなくなって行動の自由が奪われていると感じましたが、健康を守る為必要なことです。

今年こそコロナに負けず、みんな一緒に乗り越え、夏祭り、海水浴、運動会、クリスマス会を行います。

職員の皆様には置きましては、毎日感染予防に努めながら、子供達の大切な日常を守ってくださり有難ございます。

コロナ禍で多忙な日々ですが、みんな一緒に乗り越えましょう。

副会長 太刀山 逸男